

Canon EFS LENS

EF-S35mm f/2.8 MACRO IS STM



IMAGE STABILIZER

JPN

使用説明書

キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

キヤノンEF-S35mm F2.8 MACRO IS STMは、手ブレ補正機能を備え、ポートレートや風景などの一般撮影から等倍(1:1)までの近接(マクロ)撮影ができる、EF-Sレンズ対応EOSカメラ*用のマクロレンズです。

* 他のEOSカメラには装着できません。詳しくはカメラの使用説明書、製品カタログ、キヤノンのホームページなどで確認してください。

- ISはImage Stabilizer (手ブレ補正機能) の略称です。
- STMはStepping Motor (ステッピングモーター) の略称です。

カメラのファームウェアについて

- お使いのカメラのファームウェアは最新のバージョンにしてください。ファームウェアの最新バージョンの有無やアップデート方法については、キヤノンのホームページで確認してください。

本文中のマークについて



撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項などが書いてあります。



基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書いてあります。

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。お使いになる方と他の人々への危害や損害の発生を防ぐためにお守りください。

警告 死亡や重傷を負う恐れがある内容です。

- レンズ、またはレンズを付けた一眼レフカメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。
特に、レンズ単体で直接太陽をのぞかないでください。失明の原因となります。
- レンズキャップを外したまま、レンズまたはレンズを付けたカメラを日光の下に放置しないでください。太陽の光が焦点を結び、火災の原因となることがあります。

注意 傷害を負う可能性がある内容です。

- レンズ前面のLEDライトを目に近づけて点灯したり、凝視したりしないでください。目を痛める恐れがあります。
- 製品を高温や低温となる場所に放置しないでください。製品自体が高温や低温になり、触れるとやけどやけがの原因となります。

注意 物的損害を負う可能性がある内容です。

- 直射日光下の車の中など、高温になるところにレンズを放置しないでください。故障の原因となることがあります。

一般的なご注意

取り扱い上のご注意

- レンズを寒いところから暖かいところに移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かいところから寒いところに移すときも、同様にしてください。
- カメラの使用説明書の取り扱いに関する記載もご覧ください。

撮影上のご注意

- LEDライトが消灯していても、反射しやすい被写体（腕時計のガラス面など）にレンズを近づけて撮影をすると、レンズ前面にある白色のリングが写り込むことがありますのでご注意ください。なお、フードを装着すると写り込みが防げます。

撮影上のご注意

このレンズはフォーカスレンズの駆動に、ステッピングモーターを用いています。

1. フォーカスレンズの初期リセット動作について

このレンズはカメラの電源を入れたとき、フォーカスレンズを動かして初期リセットを行います。
下記のカメラ*に装着した場合は、オートパワーオフから復帰したときも同様に、初期リセットを行います。

● 初期リセット中はピント変化が生じます。

2. レンズの休止状態について

カメラの電源が入っているとき、レンズ操作をしない状態が続くと、レンズは節電のため休止状態になります。
また、カメラがオートパワーオフのとき、レンズは常に休止状態になっています。

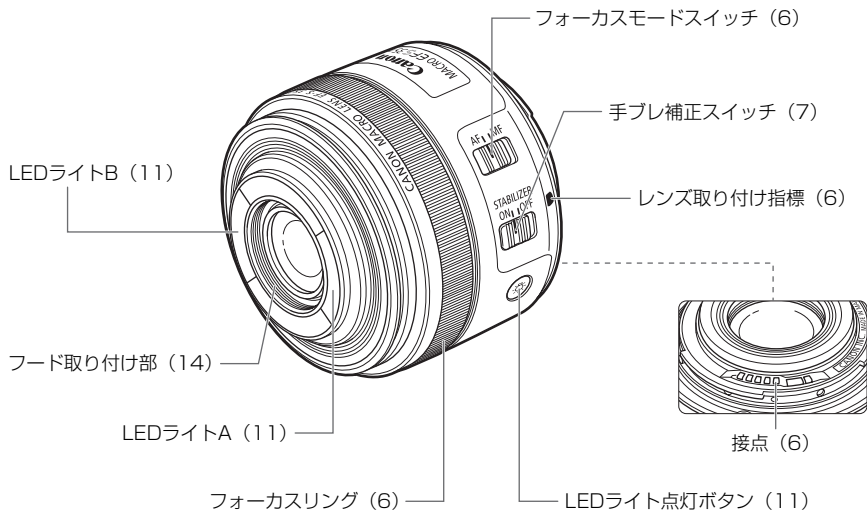
このレンズは休止状態ではフォーカスレンズを動かしません。

● 休止状態では、フォーカスリングを回してもピント合わせはできません。
レンズの休止状態からの復帰には、シャッターボタンを半押ししてください。

*：以下のカメラにおいて

EOS 7D Mark II, EOS 7D, EOS 70D, EOS 60D, EOS 60Da, EOS 50D, EOS 40D, EOS 30D, EOS 20D, EOS 20Da, EOS Kiss X5, EOS Kiss X4, EOS Kiss X3, EOS Kiss X2, EOS Kiss X70, EOS Kiss X50, EOS Kiss F, EOS Kiss デジタルX, EOS Kiss デジタルN, EOS Kiss デジタル

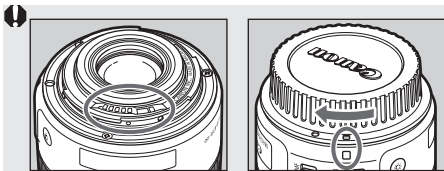
各部の名称



● (**) の**部は参照ページを示しています。

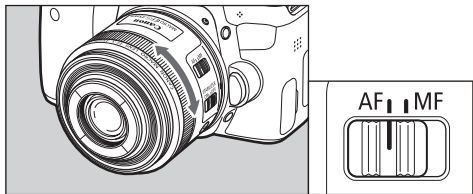
1 レンズの着脱

カメラにレンズを着脱する方法は、カメラの使用説明書をご覧ください。



- レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷付けないように接点を上にして置いてください。
- 接点に傷、汚れ、指紋などが付くと接触不良や腐食の原因になり、動作不良を起こすことがあります。汚れなどが付いた場合は、柔らかい布で接点を清掃してください。
- レンズを外したときは、レンズキャップとダストキャップを付けてください。ダストキャップの取り付けは、図のようにレンズ取り付け指標とダストキャップの□の指標を合わせて時計方向に回します。取り外しは、逆の手順で行います。

2 フォーカスモードの設定



オートフォーカス(AF)で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをAFにします。マニュアルフォーカス(MF)で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをMFにし、フォーカスリングを手で回してピントを合わせます。

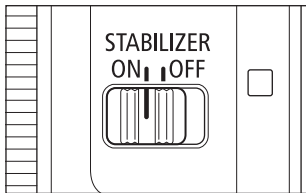
- フォーカスリングを急回転させた場合、ピント合わせが遅れることがあります。
- 電源が切れた状態では、フォーカスリングを回してもピント合わせはできません。

カメラのAF動作が [ONE SHOT] のとき、AFのあとシャッターボタン半押し状態で、マニュアルフォーカスができます。(フルタイムマニュアルフォーカス)
カメラの設定変更が必要になる場合があります。

3 手ブレ補正機能

手ブレ補正機能はフォーカスモードがAF/MFどちらの場合でも使用できます。

また撮影状況（静止した被写体の撮影、流し撮り、近接（マクロ）撮影など）に応じた手ブレ補正を行います。



1 手ブレ補正スイッチをONにします。

- 手ブレ補正機能を使用しないときはOFFにします。

2 シャッターボタンを半押しすると、手ブレ補正機能が働きます。

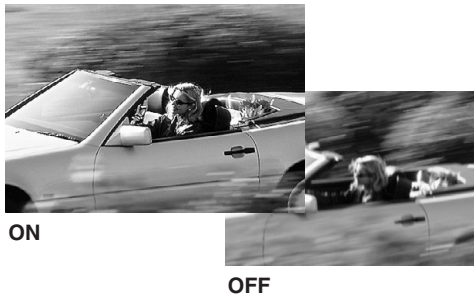
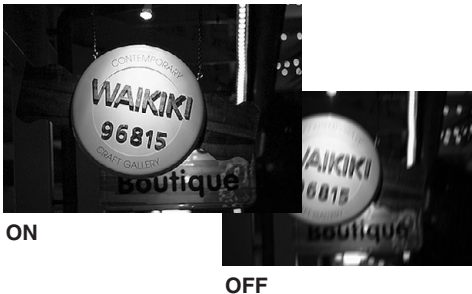
- ファインダー像が安定したことを確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します。

- 撮影距離が短くなるにしたがい、手ブレ補正効果は低下します。
- 被写体が動いてしまう被写体ブレは補正できません。
- 大きく揺れ動く乗り物から撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
- 手ブレ補正スイッチをONにすると、OFFのときにくらべて電池が消耗し、撮影可能枚数や動画撮影可能時間が少なくなります。

- 静止した被写体の撮影では、すべての方向の手ブレを補正します。
- 水平方向の流し撮りのときは上下方向の手ブレ、垂直方向の流し撮りのときは左右方向の手ブレを補正します。
- 三脚を使用した場合も支障なく撮影できますが、電池の消耗を防ぐため手ブレ補正スイッチをOFFにすることをおすすめします。
- 一脚を使用した場合も、手持ち撮影と同等の手ブレ補正効果がありますが、撮影条件によっては、手ブレ補正効果が低下する場合があります。
- 手ブレ補正機能はエクステンションチューブ EF12 II、EF25 II を使用しても作動します。
- カメラのカスタム機能で、AF作動に設定を変更したボタンを操作しても、手ブレ補正機能が作動します。

手ブレ補正機能

このレンズの手ブレ補正は、次のような条件の手持ち撮影で効果を発揮します。



- 近接（マクロ）撮影
- 夕景や室内など、薄暗い場所
- 美術館や舞台など、ストロボ撮影が禁止されている場所
- 足場が不安定な状況
- その他、速いシャッター速度が使用できない状況

- 移動する被写体を流し撮りする場合

4 手持ちによる近接（マクロ）撮影について

このレンズは無限遠の撮影から1：1（等倍）までの近接（マクロ）撮影ができます。

カメラをしっかり構える

近接（マクロ）撮影を手持ちで行うときは、右のイラストのようにカメラをしっかり構えて手ブレやピント移動をできるだけ少なくして慎重に撮影してください。

AIサーボAFで撮影する

近接（マクロ）撮影では、カメラのAF動作を「AI SERVO」AFに設定して撮影することをおすすめします。

詳しくは、カメラの使用説明書をご覧ください。

! 近接（マクロ）撮影では、次のことに注意が必要です。

- 一般撮影よりも手ブレの影響が大きくなるため、手ブレ補正効果は少なくなります。
- 被写界深度が極めて浅くなるうえ、カメラの前後方向の動きにより、ピント移動が生じます。

📏 最短撮影距離（被写体から撮像面までの距離）は0.13mです。なおワーキングディスタンス（レンズ先端から被写体までの距離）は、30mmです。



両ひじを、机などで支えてください。



カメラやレンズを持った腕のひじを、ひざで支えてください。



しっかりした壁などで、体と腕を支えてください。

5 近接（マクロ）撮影時の露出

露出の決め方

TTL測光により撮影するときは、レンズを透過した光の量を測るため、露出補正の必要はありません。すべての撮影距離で、TTL測光によりAE（自動露出）撮影ができます。任意の撮影モードを選択し、シャッター速度、絞り数値を確認して撮影します。

撮影倍率と実効FNo.

カメラに表示される絞り数値は、ピントが無限遠（ ∞ ）のときの数値です。実際の絞り（実効FNo.）は、撮影距離が近づく（撮影倍率が高くなる）にしたがって暗く（実効FNo.数値が大きくなる）になります。これは一般撮影の領域では露出にほとんど影響はありませんが、近接（マクロ）撮影の場合、実効FNo.の変化は無視できません。



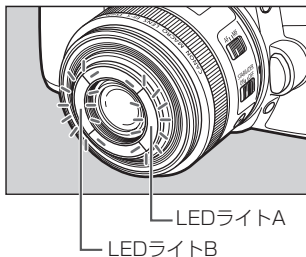
- 近接（マクロ）撮影の適正露出の決定には、被写体条件が大きく影響します。そのため、できるだけ露出を変えて撮影するか、撮影画像をカメラの液晶モニターで確認しながら撮影することをおすすめします。
- 近接（マクロ）撮影時の撮影モードは、被写界深度や露出の調整のしやすい絞り優先AE（Av）またはマニュアル露出（M）をおすすめします。

単体露出計を使用して露出を決めるときは、次の露出倍数を加えて撮影してください。

撮影倍率	0.3	0.5	0.7	1.0
撮影距離 (m)	0.21	0.17	0.14	0.13
実効FNo.	3.3	3.5	3.7	4.0
露出倍数 (段) *	+1/3	+2/3	+2/3	+1
	+1/2	+1/2	+1/2	+1

* 上段：1/3段表示 下段：1/2段表示

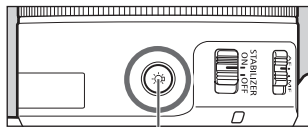
6 LEDライト



レンズ前面のLEDライトは、近接（マクロ）撮影時に撮影補助光として被写体に光を当てるためのものです。LEDライトの発光部はレンズ前面の左右に2か所あり、同時に点灯させたりどちらか片側のみを点灯させることができます。

⚠ カメラの電源が入っているときのみLEDライトは点灯します。

📷 LEDライトを片側点灯させることで、被写体に陰影をつけたり立体感のある写真が撮影できます。



LEDライト点灯ボタン

LEDライト点灯ボタンを押してLEDライトを点灯させます。LEDライト点灯ボタンを押すと約30秒間LEDライトが点灯します。

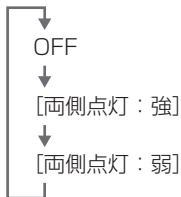
- ⚠ ● ライブビュー撮影または動画撮影時は、カメラの電源が切れるまでLEDライトは消えません。
- LEDライトを使用するときは、フードを外してください。
- LEDライトが点灯中、30秒以内に次の操作をすると、LEDライトの点灯が約30秒延長されます。
 - ・シャッターボタンの半押し／全押し*
 - ・LEDライト点灯ボタンの操作
 - ・マニュアルフォーカスの操作

* EOS 30D、EOS 20D、EOS 20Da、EOS Kiss デジタルN、EOS Kiss デジタルの各カメラを使用した場合は、半押し／全押し後シャッターボタンから指を離すとLEDライトが数秒で消えます。

LEDライト

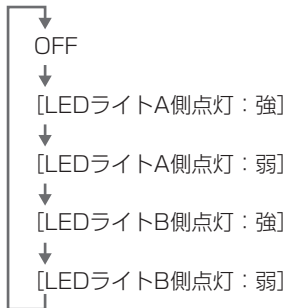
■ LEDライト両側点灯

LEDライト点灯ボタンを短く押すたびに、LEDライト両側点灯のON/OFFと強弱を切り換えることができます。



■ LEDライトA / B片側点灯

- LEDライトが消灯している状態で、LEDライト点灯ボタンを長押しすると片側点灯します。
- 片側点灯のとき、LEDライト点灯ボタンを短く押すたび、片側点灯の状態が切り換わります。



■ LEDライト両側点灯と片側点灯の切り換え

- LEDライトが点灯している状態で、LEDライト点灯ボタンを長押しすると、両側点灯と片側点灯が切り換わります。

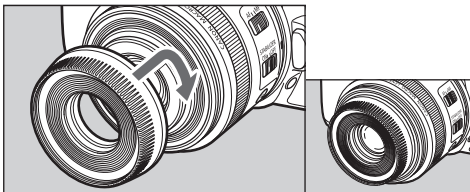
LEDライト

- LEDライトは、撮影補助光として近接（マクロ）撮影時にカメラやレンズによってできる被写体のかけりを改善するためのものです。暗い場所で十分な光を当てて撮影するためのものではありません。
- LEDライトを点灯させると、点灯させないときにくらべて電池が消耗し、撮影可能枚数や動画撮影可能時間が少なくなります。
- LEDライトの点灯が約30秒を過ぎて自動的に消えた場合は、LEDライトの点灯状態が記憶されます。再点灯させるには、LEDライト点灯ボタンを押します。このとき、消える前の状態で再点灯します。
- カメラの電源を切ってLEDライトを消したときは、点灯状態は記憶されません。
- LEDライトが点灯中でもカメラの節電機能（オートパワーオフ）により消えることがあります。このとき、LEDライトの点灯状態は記憶されません。
- 装着するカメラにより、オートパワーオフ中は、LEDライト点灯ボタンを押してもLEDが点灯しないことがあります。
- LEDライトの操作中または点灯中に、画像の再生やメニュー画面の表示、動画/静止画の切り換えなどカメラの設定変更を行うと短い時間で消えることがあります。このとき、点灯状態は記憶されません。撮影直前にLEDライトの点灯状態を確認してください。

- LEDライトの点灯中にフォーカスモードスイッチでAF/MFの切り換えを行うと、短い時間で消えることがあります。このとき、LEDライトの点灯状態は記憶されます。
- カメラにレンズを装着後数秒間はLEDライトが点灯しないことがあります。
- インターバル撮影の際にLEDライトを継続点灯させるには、撮影間隔を30秒以内に設定してください。
- タイムラプス撮影の際にLEDライトを継続点灯させるには、撮影間隔を10秒以内に設定してください。
- シャッターボタンを半押しした後、LEDライトの点灯状態を切り換えて撮影をしないでください。シャッターボタンを半押ししたときに露出が固定されるため*、その後にLEDライトの点灯状態を切り換えると、標準露出での撮影ができない場合があります。
- フードを装着するとLEDライトが隠れて点灯状態がわからないため、消し忘れにご注意ください。

* カメラの測光設定やAF動作の設定によって異なります。詳しくはご使用のカメラの使用説明書をご覧ください。

7 フード



レンズフードES-27には、次の役割があります。

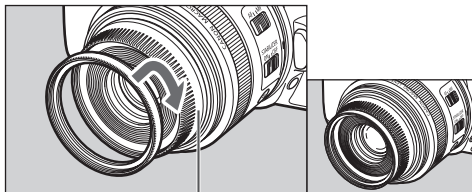
- 有害光線をカットするとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。
- レンズ前面の白色リングの写り込みを防ぎます。
- フィルター使用時のアダプターになります。

フードは、レンズ先端のねじ部に正しくしっかりと取り付けます。

- ⚠ ● フードを斜めに取り付けると、レンズの外観に傷をつけることがあります。
- フードが正しく取り付けられていないと、撮影画面にケラレが生じることがあります。
- LEDライトを使用するときは、フードを外してください。

📷 レンズにフードが装着されていても、フードの前面にレンズキャップを取り付けることができます。

8 フィルター（別売）



フード

フィルターは、フード先端のフィルター取り付けねじ部（Φ49mm）に取り付けます。

1. フードを取り付けます。
2. フードの前面にフィルターを取り付けます。

- ⚠ ● フィルターはフードを取り付けていない状態では使用できません。
- フィルターは1枚のみ使用できます。

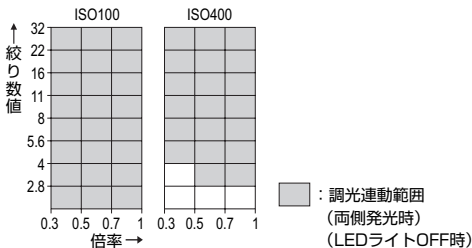
9 接写専用ストロボ（別売）

マクロリングライト MR-14EX II またはマクロツインライト MT-24EX を使用して、等倍までの近接ストロボ撮影を E-TTL 自動調光によるフルオートで行うことができます。

 MR-14EX II または MT-24EX の使い方などについては、それぞれの使用説明書を参照してください。

■ MR-14EX II を使用した場合

・調光連動範囲の目安



- 最短撮影距離付近では、周辺部が明るい画像になることがあります。
- 最短撮影距離付近では、MR-14EX II の発光部に $\phi 67\text{mm}$ フィルターを取り付けると、画像の中央付近にケラレが生じ暗くなる場合があります。その場合は、レンズ側に $\phi 49\text{mm}$ フィルターを取り付けてください。

■ MT-24EX を使用した場合

MT-24EX の調光連動範囲は、発光部の設定位置により、その範囲が大きく異なります。

- 露出がオーバーになる場合は、ISO 感度の数値を小さく設定したり、絞りを絞るなどして撮影してください。
- 最短撮影距離付近では、被写体の形状・大きさによっては、発光部が被写体と干渉することがあります。

10 エクステンションチューブ (別売)

エクステンションチューブEF12 II/EF25 IIを使用して拡大撮影ができます。撮影距離範囲と撮影倍率は次のようになります。

	撮影倍率 [倍]		撮影距離範囲 [mm] (ワーキングディスタンス)	
	近距離側	遠距離側	近距離側	遠距離側
EF12 II	1.41	0.34	133 (20)	209 (97)
EF25 II	1.91	0.76	142 (15)	167 (39)



正確なピント合わせのため、MFをおすすめします。

主な仕様

焦点距離・明るさ	35mm F2.8
レンズ構成	6群 10枚
最小絞り	F32
画角	対角 42° 35'、垂直 24° 20'、水平 35° 55'
最短撮影距離	0.13m
最大撮影倍率	1倍
画界	約 15.0 × 22.3mm (0.13m 時)
フィルター径	49mm (フード ES-27 装着時)
最大径×長さ	69.2 × 55.8mm
質量	約 190g
フード	ES-27
キャップ	レンズキャップ EF-S35、レンズダストキャップ E
ケース	LP1014 (別売)

- 35mmフォーマット換算での焦点距離イメージは56mmとなります。
- レンズの長さはマウント面からレンズ先端までの寸法です。付属のレンズキャップおよびダストキャップをつけたときの長さは、フード装着時に寸法表示+34.1mm、フード未装着時は寸法表示+24.1mmになります。
- 大きさ・質量表示は本体のみの値です。
- エクステンダーは使用できません。またクローズアップレンズは使用可能なサイズがありません。
- 絞り値はカメラ側で設定します。
- 記載データはすべて当社基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンEFレンズホームページ

canon.jp/ef

キヤノンお客様相談センター

050-555-90002 (直通)

受付時間〈平日/土/日/祝〉9:00～18:00

(1/1～3は休ませていただきます)

※ 海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は043-211-9556をご利用ください。

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Canon